

自 己 評 価 書
(平成22年度)

平成22年3月

鳴門教育大学附属特別支援学校

I 学校の現況及び目的

1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属特別支援学校
- (2) 所在地 徳島市上吉野町2丁目1番地
- (3) 学級等の構成
 - 小学部 3学級(複式)
 - 中学部 3学級
 - 高等部 3学級
- (4) 児童生徒数及び教員数(平成22年5月1日)
 - 小学部 18人, 中学部 18人, 高等部 24人
 - 児童生徒数 60人
 - 教員数 29人(正規教員)

2 目的

(1) 目的・使命

本校の目的は、附属特別支援学校校則第1条において「知的障害及び自閉症の児童生徒に対して、小学校、中学校及び高等学校に準ずる教育を施し、あわせて障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授ける」と定めるとともに、同条第2項では「幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の要請に応じて、幼児、児童又は生徒の教育に関し必要な助言又は援助を行うよう努める」と定めている。

また、校則第1条には「鳴門教育大学(以下「本学」という。)における児童及び生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており、具体的には教員養成大学の附属特別支援学校として、次のような使命をもった学校でもある。

- ① 大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学研究を行う研究学校としての使命
- ② 地域の教育課題の解明、参観者への指導・助言、文部科学省・県教委・地峡委等からの要請による教員派遣など、教育界の発展に寄与する使命
- ③ 鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

(2) 教育目標

本校は、校則第1条に示されている目的の達成

のため、学校として、また学部としてそれぞれ次のような教育目標を掲げている。

- ① 明るい性格と豊かな人間性を育てる。
- ② 日常生活に必要な習慣や態度を養う。
- ③ 生活を高めるため、知識・技能・態度を育てる。
- ④ 強靱なからだと意志を養う。
- ⑤ 集団生活への適正能力を育てる。

(小学部)

- ① 明るくやさしい心を育てる。
- ② 日常の基本的な生活習慣や態度を養う。
- ③ 言語や数量などの基礎的な能力を養う。
- ④ じょうぶな身体をつくる。
- ⑤ 校内を主とした集団での生活に参加できるようにする。

(中学部)

- ① 身体の健康及び思春期の不安定さに配慮しつつ、生徒自身が心理的に安定した状態で安全な生活を送る。
- ② 自分や他者にとってよりよい結果を得るために、行動する。
- ③ 認知・学習、運動・体力のそれぞれの知識や技能の向上を図るとともに、場面や状況に合わせた態度の育成を図る。

④ 個々の「参加」の質を高めるために、学習で身につけた知識・技能・態度を実際の家庭生活・地域生活・労働生活に発揮する。

(高等部)

自立した社会生活に必要な知識や技能を習得し、家庭生活や職業生活の中での実践力を身につける。

- ① 健康な身体と強い意志力を育てる。
- ② 将来の社会生活に必要な生活技能や言語、数量に関する能力を養う。
- ③ 進んで働く意欲と集中力仕事に対する責任感を養う。
- ④ 集団生活を通して、青年期の豊かな心情と社会性を育てる。
- ⑤ 自ら楽しむ豊かな余暇生活を創造する力を養う。

(3)めざす子ども像

本校は、本校では、学校として、また、学部としての教育目標に基づき、それぞれ次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

○明るく、仲よくできる子ども

○じょうぶで、元気な子ども

○よく働く子ども

○力いっぱいがんばる子ども

(小学部)

○やさしい子

○元気な子

○自分からする子

○がんばる子

(中学部)

○健康な身体と健全な心を持つ生徒生徒

○周りの人に自分から意志を伝え、係わりあえる生徒

○学びや体験をとおして「分かる」「できる」「こうすればいい」ことを自分から見つけられる生徒

○自分の興味や関心、楽しみを広げ、様々な生活場面に参加できる生徒

(高等部)

○自分と仲間を大切にする生徒

○何事にも生き生きと取り組む生徒

○意欲的に働く生徒

○自ら生活を楽しむ生徒

(4)平成22年度重点課題(評価項目)

①適切な指導と支援

小・中・高の一貫性の確立

教育課程・内容の検討

個別の教育支援計画の充実

個別の指導計画の充実

教員の授業力向上

②センター的機能の充実

大学との連携強化

教育相談及び講師ができる教員の育成

今後のセンター的機能の方向性の検討

③研究及び研究成果の発信

社会性をテーマとした研究発表

23年度以降の研究の方向性の検討

④実地教育の充実

実地教育に関する改善プログラムの作成

⑤組織マネジメントの効果的な導入

学校評価と教員評価の連動

運営方針及び運営計画の作成及び周知徹底

校務運営の効率化

平成22年度 重点課題

(1) 適切な指導と支援

- | | |
|----------------|--------------------|
| ①小・中・高の一貫性の確立→ | 小学部 中学部 高等部 |
| ②教育課程・内容の検討→ | 教務部 研究部 支援・進路部 総務部 |
| ③個別の教育支援計画の充実→ | 教頭 中学部 支援・進路部 |
| ④個別の指導計画の充実→ | 小学部 中学部 高等部 教務部 |
| ⑤教員の授業力向上→ | 小学部 中学部 高等部 研究部 |

(2) センターの機能の充実

- | | |
|---------------------|-------|
| ①大学との連携強化→ | 地域支援部 |
| ②教育相談及び講師ができる教員の育成→ | 地域支援部 |
| ③今後のセンター的機能の方向性の検討→ | 地域支援部 |

(3) 研究及び研究成果の発信

- | | |
|--------------------|-----|
| ①社会性をテーマとした研究発表→ | 研究部 |
| ②23年度以降の研究の方向性の検討→ | 研究部 |

(4) 実地教育の充実

- | | |
|----------------------|-----|
| ①実地教育に関する改善プログラムの作成→ | 教務部 |
|----------------------|-----|

(5) 組織マネジメントの効果的な導入

- | | |
|----------------------|-----|
| ①学校評価と教員評価の連動→ | 教頭 |
| ②運営方針及び運営計画の作成・周知徹底→ | 教頭 |
| ③校務運営の効率化→ | 総務部 |

学校評価シート（H22年度）

学部・部	小学部	記入者氏名	港 真理子
重点課題	(1) -①小・中・高の一貫性を確立する。		
現状と課題 及び 目標設定の理由	<p>(1)これまでのところ学校目標を学部目標におろす際、各学部がそれぞれに目標設定をし、それらを持ち寄って討議することはなかった。各教員がそれぞれの目標を具体化して日々の実践を行うためには、また小・中・高が一貫性をもって教育に当たるためには、目標の一貫性を図ることが重要と考えた。</p> <p>(2)昨年度は小学部6年生の中学部授業参加は1月から2月にかけて各児童計5回ずつ実施した。一定の移行成果は見られたが今年度はより充実したものとするため、年間を通じて実施したい。また、教員間での移行に関する話し合いの時間も設定してよりよいものにしたいと考えた。</p>		
重点目標	<p>(1)学部目標の各項目の視点を統一したものとする。</p> <p>(2)中学部への移行にかかる準備期間を1年間とし、教員間でその成果を検討する。</p>		

<p>具体的な指標 ex. (数値化) (定性的表現による尺度化) 目標達成のための活動計画 (手だて、スケジュール等を含む)</p>	<p>(1)・小・中・高等部の教育目標について、対応する目標のすべての項目について一貫性をもたせる。</p> <p>・小学部の教育目標について、学部教員による評価を行う。学校の教育目標と学部の目標との一貫性を図る。・4月下旬までに学部の教育目標を再検討し、その後、小・中・高の目標の一貫性の観点から、それぞれ対応する目標について検討・修正をしたのち決定する。</p> <p>(5月末)そして小・中・高の一貫した教育目標の原案を作成する。</p> <p>・12月に主事会で確認して来年度からの新目標として決定し、学校要覧に載せるものとする。</p> <p>(2)小学部6年生について、前期は月1回中学部の授業に参加し、その結果を小・中の教員で話し合う。後期は週1回参加したり、中学部からのゲストティーチャーを招いてより移行がスムーズにできるようにする。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価指標の達成度 (10月)	<p>(1)学部レベルでは達成。主事会に於いて学校教育目標についての検討は12月になったが、達成。</p> <p>(2)前期・後期とも達成はできなかった。</p>			
活動計画の実施状況 (10月))	<p>(1)小学部の教育目標について学校の教育目標との一貫性を点検した。また、学部の教育目標について教員全員で見直し、意思統一を図った。文末表現など一部訂正を加えた。主事会に於いて学校教育目標についての検討をした。一部削除の方向で確認した。</p> <p>(2)前期1回中学部の授業に参加。後期は12月より週1回のペースで参加。それぞれの学部の事情もあり、頻繁な参加はできなかった。</p>			
総合評価 (○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	7.0~79%	50~69%	49%以下
評価根拠	<p>(1)については学部の教育目標の見直しが完了した。</p> <p>(2)については上記の通り。学期末には個別に授業参加ができたが、昨年並みの回数であった。</p>			
次年度の課題	<p>年度当初にその年の移行支援について両学部で話し合いの機会を持ち、合同での学習の機会を設ける等、方法を探る。教員同士の行き来も頻繁に行えるようにしたい。</p>			

学校評価シート（H22年度）

学部・部	中学部	記入者氏名	岩寄伸浩
重点課題	(1) - ①小・中・高の一貫性の確立		
現状と課題 及び 目標設定の理由	<p>これまで、学部間の教育内容の検討と調整は、表面的には、小・中・高と教育の連続性をメリットとして表明しながらも、具体的に取り組む必要性は指摘されても、実際に摺り合わせる機会もなく棚上げされてきた感が極めて強い。そのため、各学部は、在籍する児童生徒の状態や教員配置等の個々の事情を優先した教育課程全体ではなく、週時程の設定を行ってきた。結果として、小規模校ながら学部のオリジナリティーだけが強調される状況に陥ったと考えられる。各学部の教育目標についても、形骸化した感が否めず、実際の週時程との関連も精査されていない状況である。</p> <p>平成21年度末に実施された学校自己評価においても、保護者の方のご意見から、各学部間の連携と指導の系統性、一貫性に対して疑問が呈される結果となった。</p> <p>こうした状況の中、本校が改めて12年間の系統性と一貫性のある指導と支援の実現を目指すことや新学習指導要領が改訂されことタイミングをきっかけととらえ、具体的に系統性や一貫性について形あるものにする必要性がいよいよ高まってきたと言える。</p>		
重点目標	・小・中・高の教育目標における一貫性の確立をめざす。		

具体的な指標 ex. (数値化) (定性的表現による尺度化)	平成22年度内に、小学部、中学部、高等部の教育目標に掲げている内容について、項目統一と内容の改訂を行う。
目標達成のための活動計画 (手だて、スケジュール等を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・主事会の定例の議題に位置づける。学部の項目は、学部会の議題に挙げてコンセンサスを図る。 ・主事会から出された項目について、ふさわしい内容を考える ・中学部の教育内容の見直しを行う ・教育内容に対する教育方法の見直しを行う ・見直された教育内容と教育方法から教育目標との摺り合わせを行う ・4月下旬までに学部の教育目標を再検討し、その後、小・中・高の目標の一貫性の観点から、それぞれ対応する目標について検討・修正をしたのち決定する。(5月末)そして小・中・高の一貫した教育目標の原案を作成する。 ・12月に主事会で確認して来年度からの新目標として決定し、学校要覧に載せるものとする。

評価指標の達成度 (10月)	△			
活動計画の実施状況 (10月)	現在、各学部レベルでの検討段階に入っている。中学部は決定。			
総合評価 (○で囲む)	A	(B)	C	D
	80%以上	70~79%	50~69%	49%以下
評価根拠	学部間で、項目毎の内容の統一を図り、学部における妥当な内容設定を行った。			
次年度の課題	学校教育目標の見直しを始める。			

学校評価シート（H22年度）

学部・部	高等部	記入者氏名	森住利夫
重点課題	(1) - ①小・中・高の一貫性の確立		
現状と課題 及び 目標設定の理由	<p>・本校では、学校の教育目標からおろして、各学部の教育目標が決定されている。しかしながら、学部間の教育目標の一貫性をみてみると、必ずしもそこに統一した目標設定の観点や内容の一貫性があるとはいえない。</p> <p>小・中・高等部の教育の一貫性をねらっていくためには、学部間の教育目標について、観点を統一しながら一貫性が保たれるようにしなければならない。</p>		
重点目標	・小・中・高の教育目標における一貫性の確立をめざす。		

具体的な指標 ex. (数値化) (定性的表現による尺度化)	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中・高等部の教育目標について、対応する目標のすべてにこの項目について一貫性をもたせる。 ・高等部の教育目標について、学部教員による評価を行う。学校の教育目標と学部の目標との一貫性を図る。
目標達成のための活動計画 (手だて、スケジュール等 を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・4月下旬までに学部の教育目標を再検討し、その後、小・中・高の目標の一貫性の観点から、それぞれ対応する目標について検討・修正をしたのち決定する。(5月末)そして小・中・高の一貫した教育目標の原案を作成する。 ・12月に主事会で確認して来年度からの新目標として決定し、学校要覧に載せるものとする。

評価指標の達成度 (3月)	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部の目標数について、4目標に統一できた。 (身体面・精神面・能力面・自立面) ・4つの目標に対応して、4つの「めざす生徒像」を考案した。 			
活動計画の実施状況 (3月)	<ul style="list-style-type: none"> ・9月の主事会にて、目標の第1案を出し合い、学部間の一貫性とその内容について検討した。 ・11月の主事会にて、目標とともに、めざす生徒像の4項目を合わせて検討した。 			
総合評価 (○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70~79%	50~69%	49%以下
評価根拠	・来年度の学部の目標とめざす生徒像の完成			
次年度の課題	・目標とめざす生徒像の妥当性の検討			

学校評価シート（H22年度）

学部・部	教務部	記入者氏名	田宮 亘司
重点課題	(1) - ②現在の本校における指導内容を見直し、次年度の教育課程を編成する		
現状と課題 及び 目標設定の理由	本校では、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成する際、本校独自で開発した「実態把握のための尺度表」（以下、尺度表）というツールを活用している。この尺度表により、全学部の教員が共通の視点で児童生徒像を捉えることができるようになった。しかし、尺度表の項目に限定された指導内容が展開されたり、その時点での発達段階にのみ焦点が当てられた指導内容が編成されたりするといった、偏った指導内容に陥る懸念が生じている。そのため、新学習指導要領に則った指導内容が展開される教育課程を編成する必要がある。		
重点目標	①各学部の指導内容の実情を明らかにする。 ②新学習指導要領に則り、各学部における指導内容を編成する。		

具体的な指標 ex. (数値化) (定性的表現による尺度化)	①について ・年間を通じて、各授業の指導内容のデータを収集し、実施指導内容表を作成する。 ②について ・①をもとに、各学部の傾向（強みと弱み）を割り出す。 ・各学部で編成案を作成する。
目標達成のための活動計画 (手だて、スケジュール等を含む)	①について ・授業担当者が年間もしくは半年の指導計画を作成する。 ・授業担当者が月ごとに実施指導内容を報告し、教務部で実施指導内容表にまとめる。 ②について ・11月～12月にかけて、指導内容の傾向分析を行う。 ・12月～1月にかけて、指導内容の方向性を検討する。 ・2月に、各学部の教育課程編成案を作成する。 ・3月に、次年度の各学部の教育課程を決定する。

評価指標の達成度（10月）	①実施指導内容の報告を継続中である。②未実施。			
活動計画の実施状況（10月）	①各学部教務のもと、授業の実施報告を月単位で行っている。現状として、報告申請手続きについて問題点が浮上しているため、来年度の継続に向けての整備が必要である。②次年度の時間割やカリキュラム作成に向けて、集計を行う予定である。			
総合評価 (○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	時数チェックはできたが、内容報告は運用の確立ができず、傾向分析までには至らなかった。新尺度表を提示し、次年度の教育課程検討に活用できた。			
次年度の課題	・次年度からは、個別の指導計画に学習履歴欄を設け、そこに実施内容を記載することとした。これにより、実施内容の集計も容易になるため、傾向などの分析や教育課程への反映など、教務部としてのデータ活用の方向性を検討していくことが課題である。			

学校評価シート（H22年度）

学部・部	研究部	記入者氏名	吉本 貴明
重点課題	(1) - ②教育課程・教育内容の検討		
現状と課題 及び 目標設定の理由	<p>本校は、小・中・高の3学部が同じ学校にありながら十分に一貫性が保たれておらず、各学部の実状に応じた教育課程、教育内容となっている。児童生徒の小学部入学から高等部卒業に当たるまでの教育に一貫性を持たせることが必要であると考え。本年度の研究テーマのキーワードである「社会性」を育むことにおいて、各学部で目指す児童生徒像を出し、本校での社会性を考える上での参考となるようなものを考えていきたい。それが各学部の教育内容に反映されるようになると一貫性が保たれているといえることができるのではないかと考える。</p>		
重点目標	<p>・小・中・高等部で目指す児童生徒像をまとめし、「社会性」を育むときに考えるべきキーワードを作成する。</p>		

具体的な指標 ex. (数値化) (定性的表現による尺度化)	<p>・4月の班別研究会、10月の中間報告を受けて、各学部から挙がってきた研究内容を元に、本校で身につけたい「社会性」を考える際に必要なキーワードを考える。</p>
目標達成のための活動計画 (手だて、スケジュール等を含む)	<p>4月8日の全体研究会で全体に提示した社会性の定義、4月16日の班別研究会の報告を元に研究部で協議する。10月の中間報告を受けて、目指す児童生徒像の再確認を行う。12月の研究紀要の執筆〆切までに内容をまとめて全体で確認作業を行う。</p>

評価指標の達成度 (10月)	<p>「PDCA サイクル」「自立活動の授業」「他の教科との関連」「自発性、主体性」「教員の授業評価」という5つのキーワードが挙げられた。</p>			
活動計画の実施状況 (12)	<p>中間報告を受けて、研究部でまとめの協議を行った。「PDCA サイクル」については自立活動と他の授業との関連を考える大きなサイクルと授業の中で見直しを行っていく小さなサイクルでの改善を行った。「自立活動の授業」については各学部の方で行っている時間における指導を中心に社会性の獲得へのアプローチを行った。「他の教科との関連」については、それぞれの学部で般化を検証するもしくは関連させて指導する場面を設定し、PDCA サイクルに沿った確認が行われた。「自発性、主体性」については、身につけた社会性の行動スキルが、他の場面で現れるかどうかということに付いての検討を行った。SST の行動と理由を関連させて指導するという内容と同じようなことでの確認が行われた。「教員の授業評価」については、今まで主観的な評価だったのを客観化しわかりやすくすることで、子どもとの関係づくりや授業の見直しということで有効かつ必要であるという見解になった。</p>			
総合評価 (○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70~79%	50~69%	49%以下
評価根拠	<p>早い段階でキーワードを提示ができていたらもっと研究がスムーズに進んだであろうと予想されるが、キーワードを得るのに紀要の執筆が終わってからということになってしまった。職員への周知も研究発表会後の全体発表のスライドで十分な話ができなかったため総合評価はBとする。</p>			
次年度の課題	<p>今回のキーワードは、次回の研究のキーワードを得る際にもしくは来年度に本年度の研究を校務レベルで継続する際に一つ考えておかなければいけない内容であると考え。これらのキーワードは、来年度の活動で反映されるようにしていく必要がある。</p>			

学校評価シート (H22年度)

学部・部	支援・進路部	記入者氏名	後山 真吾	
重点課題	(1) - ②生徒指導 - 生徒会活動 -			
現状と課題 及び 目標設定の理由	本校での児童生徒会役員は小、中、高の各学部から選出されている。障害の重度多様化がいわれる中でも、生徒会役員は学校行事等の集会においてイベントを企画したり、資料や掲示物を作成したり表現する力を身につけられることを期待したい。また全校朝会等の集会においては進行・運営を自主的に行っていく中で集団でのフォーマルな情報発信の仕方や態度を身につけられることも期待したい。また集会等に参加する全校児童生徒においては集団活動への参加態度や意欲を高めるとともに提示される情報を理解し日常生活を送る上で必要な知識を身につけられるような活動の「パッケージ」を開発したい。			
重点目標	1) 児童生徒が自主的に運営し、達成感を得ることができる生徒会活動のシステムを確立する。 2) 参加する児童生徒が集会等において、活動や提示された情報を受容でき、参加への意欲を高められる「パッケージ」を確立する。			

具体的な指標 ex. (数値化) (定性的表現による尺度化)	①生徒会役員が最小限の援助を受けながら自主的に生徒会を運営する。 ②学校行事や集会等において生徒会活動のPR活動などを行う。 ③生徒会組織の見直しを図る。
目標達成のための活動計画 (手だて、スケジュール等を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容や各役員の役割等について週に1回、生徒会活動日を設置し、協議する。 ・全校朝会等の集会、生徒会活動をPRできるを月に1回程度、設定し試行する。 ・全校朝会では保健、人権、進路などから報告や必要な情報をスライドや具体物を使用して提示する。*別紙「全校朝会の年間計画」参照 ・生徒会組織を編成し、各委員会ごとの活動内容をまとめ試行的に実施する。

評価指標の達成度 (10月)	①朝の放送の開始。全校朝会の進行を実施。 ②運動会において来賓向けに受付を担当。 ③生徒会規約の改訂を検討中。			
活動計画の実施状況 (10月))	<ul style="list-style-type: none"> ・3年計画で生徒会活動の運営を検討することとした。 ・計画はあるが未実施。・全校朝会、運動会にとどまる。 ・全校朝会において保健、人権、進路からタイムリーな情報を提供。 ・生徒会組織編成は未実施。 			
総合評価 (○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70~79%	50~69%	49%以下
評価根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・部(各活動)の計画、運営スケジュールが不十分。 ・3年次の初年度としては部分的に達成できたこと。 			
次年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動の年間スケジュールを計画。(本年度中) ・週番会(仮称)の実施と生徒会組織の編成。 ・児童生徒会役員選挙の見直し。 ・行事等でのPR活動。 ・他校生徒会や学校との生徒会交流の計画、実施。 			

学校評価シート（H22年度）

学部・部	総務部	記入者氏名	清久 幸恵
重点課題	(1) - ②教育課程・教育内容の検討		
現状と課題 及び 目標設定の理由	5月に運動会, 11月に学校展, 12月に学習発表会と行事があるが, 小学部, 中学部, 高等部と一緒に活動する場を提供することが, 児童生徒の実態から難しくなっている。そこで, 児童生徒に無理のない行事のあり方を教員, 保護者の意見を聞きながら, よりよい方向を探っていく。		
重点目標	運動会, 学校展, 学習発表会の三大多行事のあり方の検討		

具体的な指標 ex. (数値化) (定性的表現による尺度化)	①行事についてのアンケートを教員に1回以上行う。 ②行事についてのアンケートを保護者に1回以上行う。 ③行事終了後には, 教員, 保護者双方へアンケートを行い, 行事についての意見を集約する。
目標達成のための活動計画 (手だて, スケジュール等を含む)	4月 運動会の実施計画教員へ周知 5月 運動会: 終了後, 教員, 保護者にアンケートを実施 アンケート結果集約 10月 学校展の実実施計画教員へ周知 11月 学校展: 終了後, 教員, 保護者にアンケートを実施 アンケート結果集約 学習発表会の実施計画教員へ周知 12月 学習発表会: 終了後, 教員, 保護者にアンケートを実施 アンケート結果集約 行事全般に関するアンケートを実施

評価指標の達成度 (10月)	行事についてのアンケートは運動会, 学校展, 学習発表会終了後となるのでできていないが, 運動会終了後は, 保護者, 教員の双方にアンケートを行った。			
活動計画の実施状況 (10月)	運動会の行事終了後に, 教員と保護者にアンケートを行い, 意見を集約し, 結果を教員と保護者に伝えた。学校展については, 実施計画を作成し, 開催に向けて進行している。			
総合評価 (○で囲む)	A	(B)	C	D
	80%以上	70~79%	50~69%	49%以下
評価根拠	行事終了後にアンケートを行い, 児童生徒, 保護者, 教員にとってもっとも良い行事の在り方を来年度に向けて考えることができた。			
次年度の課題	今年度は, 方向性を考え, 再来年度に向けての計画を立てることができたので, そのタイムスケジュール通りに進めて, 再来年度に開催ができるよう, 話し合い, 伝達が必要である。			

学校評価シート（H22年度）

学部・部		記入者氏名	郡 俊恵
重点課題	(1) - ③個別の教育支援計画の充実		
現状と課題 目標設定の理由	<p>保護者とは、個別の教育支援計画及び個別の指導計画の運用をとおして連携を進めている。しかし、児童生徒の将来を見通したより効果的な連携を図っていくためには、保護者と学校がそれぞれの立場で児童生徒の将来に向けてのビジョンを描くことが不可欠である。</p> <p>昨年、保護者会と学校共催という形で、保護者のニーズに沿った研修会を開催したが、今後は保護者のニーズに沿った研修に加えて、児童生徒の年齢に沿って必要となる情報や知識を計画的に提供していくことも重要ではないかと考えられる。</p> <p>そこで、今年度は保護者へのアンケートを実施して学年別のニーズを把握するとともに、学校側が児童生徒の年齢に沿って必要と考える情報・知識が得られるような研修計画を各学部主事・支援・進路部の協力を得て教頭が作成し、来年度からの実施を目指したい。</p>		
重点目標	保護者と学校がよりよき連携を図るため、保護者が児童生徒の将来に向けてのビジョンを描くための支援となる研修計画を作成する。		

具体的な指標 ex. (数値化) (定性的表現による尺度化)	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が、児童生徒の将来に向けてのビジョンを描くための研修計画を作成する。 ・計画の中の研修会を1回以上実施し、参加者の8割以上から「参考になった」という回答を得る。
目標達成のための活動計画 (手だて、スケジュール等を含む)	<ol style="list-style-type: none"> ① 7月までに、保護者に研修に関するアンケートを実施し、学部別のニーズを把握する。 ② 8月に学部主事・支援・進路部・教頭が来年度の保護者向けの研修計画の作成を行う。 ③ 後期に、計画の中から今年度開催可能な研修会を1回以上実施する。

評価指標の達成度 (10月)	保護者が、児童生徒の将来に向けてのビジョンを描くための研修計画を支援・進路部と検討中			
活動計画の実施状況 (10月)	<ol style="list-style-type: none"> ① 9月に保護者アンケートを実施 ② 進路・支援部と来年度の保護者向けの研修計画を検討中 			
総合評価 (○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70~79%	50~69%	49%以下
評価根拠	次年度の保護者研修会の実施計画を作成 2月25日に「性教育」をテーマとした保護者研修会を実施し（講師 岩寄中学部主事、浅野養護教諭）、88%の参加者から「ニーズに沿った内容であった」「参考になった」というアンケート結果を得ることができた。			
次年度の課題	研修計画に沿って保護者研修会を、年間3回実施する。（現行の研修会・施設見学・全校あるいは保護者の懇談会）他校からの新入生については福祉サービスの使い方についての研修会を実施する。			

学校評価シート（H22年度）

学部・部	中学部	記入者氏名	岩寄伸浩
重点課題	(1) -③個別の教育支援計画の充実-将来を見据えた支援体制作り-		
現状と課題 及び 目標設定の理由	本年度、中学部の重点活動目標として中学部から高等部への円滑な連絡進学と家庭・地域支援の充実を掲げている。特に、保護者からの要望が昨年度から高まっていることに加え、学校教育の範疇として校内で獲得された能力を実際の社会生活場面で発揮させることを意図してのことである。また、生徒たちの環境をより整えていくことも併せて重要活動目標として取り上げている。すなわち、単なる家庭や学校、関係機関がそれぞれ単独で努力するのではなく、必要な情報交換を行い、それぞれのリソースを活用し合った指導や支援を行えるよう、特別支援教育の理念の中の重要な柱である連携という部分について確立させる必要があると考えた。		
重点目標	1) 高等部との合同委託作業学習を通じた移行及び連携の強化 2) 関係機関との連携による学校における指導・支援の充実 3) 家庭における支援のマネジメント力の向上		

具体的な指標 ex. (数値化) (定性的表現による尺度化)	1) 作業学習（委託）の合同実施から、中学部及び高等部における作業学習の目的や指導の階層性を尺度表の評価基準設定に位置づけて明らかにする。 2) 学校で獲得された行動様式を家庭及び地域での般化場面での達成を図る取り組みを10例実施する。 2) 医療・療育機関との連携に基づく自立活動の指導を3事例行う。 3) 教育支援計画に記載する支援連携先を増やす。
目標達成のための活動計画 (手だて、スケジュール等を含む)	1) 年間を通じた合同実施と月1回程度のミーティングによる高等部の目指す進路指導・支援に基づいて学部で検討する。 2) 就業体験並びに夏期休業中の家庭・地域支援 2) 外部リソースの支援内容を指導計画に位置づけ、電子メール等でのやりとりに基づいて、指導と支援の効果を高める。 3) 就業体験、保護者向けの情報提供、研修会開催、懇談を通じての福祉・療育機関への契約に向けた斡旋を行う。

評価指標の達成度（10月）	○			
活動計画の実施状況 (10月))	1) 高等部との作業学習（委託）の合同実施を行っている。ミーティングは適宜、学期毎に持つことができたり、情報交換をすることができた。 2) 現在実施中。自主登下校への応用。家庭、地域生活への応用を行っている。修学旅行や校外学習で成功例を挙げている。 2) 夏季休業中等の関係機関への訪問や保護者を介しての情報交換等で指導・支援の充実を図ることができている。 3) 未実施。就業体験は1月に実施。保護者研修会は検討中。福祉施設への契約・登録・利用の実例が数例見られる。			
総合評価 (○で囲む)	(A)	B	C	D
	80%以上	70~79%	50~69%	49%以下
評価根拠	1) では、高等部とのミーティングはグループレベルにとどまった。 2) では、教育支援計画の項目記載の量を増加させることができた。 3) では、保護者の充足度が8割を超えた。			
次年度の課題	1) については、中学部における作業学習の見直しを行った。その結果を高等部に提出した上で、新たな中高連携の方策を検討する。 2) 3) については、今年度並みの取り組みを継続する。			

学校評価シート（H22年度）

学部・部	支援・進路部	記入者氏名	後山 真吾
重点課題	(1) - ③個別の教育支援計画の充実 - 指導と支援のバランスから -		
現状と課題 及び 目標設定の理由	<p>障害児への指導は生活年齢が上がるにつれて技能的な指導は絞られていき、その反面その活動を行う環境を広げて地域社会のいろいろな場所で獲得した力を発揮できるように指導するというマクロな視点から個別の教育支援計画を策定し授業実践がなされている。家庭や学校、関係機関の連携(ネットワーク)は特別支援教育の理念の重要な柱であるが、家庭や地域生活において十分な情報交換が行われているとは言い難く支援計画の運用自体が形骸化されている印象は否めない。また近年、支援というキーワードにより看過されがちな支援から得られる本質的な指導について改めて考えていく必要があるのではないかと思われる。これらの活動をとおして教育支援計画の充実をはかりたい。</p>		
重点目標	<p>1) 個別の教育支援計画の計画的な運用 2) 関係機関との連携による学校における指導・支援の充実 3) 家庭における支援のマネジメントの向上</p>		

具体的な指標 ex. (数値化) (定性的表現による尺度化)	①現行の教育支援計画について計画的な運用を行う。 ②支援先から得られたニーズ等について学部内で共通理解を図る。 ③家庭・地域支援など外部リソースの拡大と資産化を行う。 ④教員や保護者における支援の専門性を高める。 ⑤交流教育の充実を図る。
目標達成のための活動計画 (手だて、スケジュール等を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援会議の開催スケジュールやポイントを含めた運用マニュアルを作成する。 ・ 在校生の保護者に対して尺度表項目の重要度(重要レート ver.2)に関するアンケートを実施し、指導内容の焦点化を検討する。*研究部と ・ 教育支援計画の運用に関するチェックリストを作成し実施する(3月)。 ・ 夏休み前後(7月～9月)に保護者から外部支援の利用に関するアンケートを実施し支援リソースを資産化する。秋休み(10月)から情報提供を行う。 ・ 地域との交流活動をとおして外部リソースの拡大を図る。 ・ 保健、人権、進路指導の面から必要とされる支援について教員や保護者向けの研修会を実施する。

評価指標の達成度(10月)	①現行年間スケジュールに沿って運用中。②ニーズ等調査は未実施。 ③リソースの資産化を実施中。④年度内に1回、保護者研修会を予定。 ⑤支援部としては未実施。			
活動計画の実施状況(10月)	・運用マニュアルの原案を支援部内で作成中。・尺度表項目の重要度アンケートは未実施。 ・教育支援計画の書式の改訂に移管する。・支援計画 NO5 から支援リソースの資産化を実施する。 ・2月ごろ保護者ニーズの高い研修会を実施予定。			
総合評価 (○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	・部としての年間スケジュールや担当の検討が不十分。・支援計画の改訂は教務部と協議により書式を作成できた。・支援リソースは次年度当初へ持ち越し。			
次年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援・進路部運営スケジュール、担当等を計画し計画的に運用すること。 ・ 新支援計画の運用の周知徹底。 ・ 教員、保護者研修会を管理職との協議の上検討し実施する。 ・ 交流教育に関する部内の検討と計画、実施。 			

学校評価シート（H22年度）

学部・部	小学部	記入者氏名	港 真理子
重点課題	(1) -④個別の指導計画の充実を図る		
現状と課題 及び 目標設定の理由	<p>昨年度は、個別の指導計画をもとに指導をする中で、学期途中に指導の進捗状況を出して反省をしたり、新たな目標を設定したりした。しかし、目標設定そのものが尺度表をもとに保護者と話し合った課題であったため、教育課程や発達検査の結果を十分に生かしたものとはいえないところがあった。</p> <p>そこで今年度は、各発達検査のデータを分析して指導に生かすと共に、目標を設定する際に、学習指導要領の目標や内容に合致したものであるかどうかを検証し、より充実した指導計画にしていきたいと考える。</p>		
重点目標	学習指導要領および発達検査の結果を生かした個別の指導計画を作成し、その成果を検証する。		

具体的な指標 ex. (数値化) (定性的表現による尺度化)	<ul style="list-style-type: none"> ・発達検査から導き出された課題を整理して、個別の指導計画作成時に生かすことができるようにする。 ・学習指導要領の目標や内容が反映された個別の指導計画を作成する。
目標達成のための活動計画 (手だて、スケジュール等を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・4月当初に学部で決定した発達検査を全員に行う。 ・各教員が学習指導要領を熟読し、各教科・領域の年間計画を立てる。 ・各教員が個別の指導計画の目標が学習指導要領の目標と合致しているかどうか検証する。支援会議に於いて報告および検討を加える。 ・各教員が発達検査の結果がどのように個別の指導計画の目標に反映されているかを検証する。支援会議に於いて報告および検討を加える。 ・7月・12月の学部会で指導の進捗状況を報告する。 ・目標の見直しや追加を行い、より充実した指導を目指す。

評価指標の達成度 (10月)	支援会議を経て指導計画を見直すことはできていない。 指導計画は、主事および教頭・校長のチェックと指導を受けている。			
活動計画の実施状況 (10月)	太田のステージによる認知レベルに合わせた指導が取り入れられている。夏の研修以降、感覚と運動の高次化発達水準からみた領域別の評価を参考に後期の指導計画に生かした。			
総合評価 (○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	12月の学部会では、各児童の指導の進捗状況を全員で確認した。目標の見直しや追加については、教務部から出た案に基づいて周知、実行した。			
次年度の課題	各教科や合わせた指導の年間計画と個別の指導目標とのすりあわせを行い、より充実した指導計画を立てたい。新尺度表からの目標をどのように教育課程に位置づけるか、検討を重ねたい。			

学校評価シート（H22年度）

学部・部	中学部	記入者氏名	岩嵯伸浩
重点課題	(1) -④個別の指導計画の充実 -発達と行動形成両面から評価を行うための諸検査の導入等-		
現状と課題 及び 目標設定の理由	<p>中学部では、昨年度実施した学校自己評価の項目の中で、教育内容の充実に関して、個別の指導計画における指導達成率を8割以上とする目標を掲げたものの、達成率が49.6%という結果に留まってしまった。学部主事による個別の指導計画の内容設定段階でのチェックを高めることと、実際の授業場面における教員サポートの実施を改善策として挙げた。全授業では困難であるため、本年度については、特に、国語・数学の分野に限った改善を期したい。</p> <p>加えて、実際の指導場面において、教員主観、個々の教員の考えに基づいた指導や支援のウェイトが高い。支援会議等で共通理解を図っているが、意見の根拠が乏しいことから、客観的評価の積極的導入を図りたい。</p>		
重点目標	1) 個別の指導計画の目標達成率の向上 2) 客観的アセスメントの実施と結果分析の活用		

具体的な指標 ex. (数値化) (定性的表現による尺度化)	1) については、達成率70%以上を確保する。 2) については、LDT-R, S-M社会生活能力検査, MEPAを基本検査として、全生徒で実施し、その分析結果を支援会議や指導計画作成時の参考資料として活用する。
目標達成のための活動計画 (手だて, スケジュール等を含む)	1) ・4月中に前期個別の指導計画の作成と校正, 支援会議の開催 ・5月中旬に, 保護者提出 ・6~10月に, 担当教員毎の指導に関するミーティング実施 ・8~9月に保護者懇談を通じて個別の指導計画の進捗状況の確認 ・10月, 前期評価と後期の目標設定と校正。支援会議の実施 ・10月初旬, 後期指導目標の保護者提出 ・2月, 懇談(総括)の実施と支援会議の開催。後期評価の作成と次年度の課題の抽出 2) ・4月中に基礎検査の実施と結果分析の報告。支援会議にて共通理解を図る ・5月中に, 基礎検査の結果分析に関連した教員研修の実施

評価指標の達成度 (10月)	1) △ 2) ○			
活動計画の実施状況 (10月)	1) 達成率41.9% 2) 基本検査の実施及び支援会議にて結果を基に指導方針を立てた。			
総合評価 (○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70~79%	50~69%	49%以下
評価根拠	1) の達成率が 60.8%になった。2) については, 達成できた。			
次年度の課題	1) については, 個別の指導計画運用について, 教員個人レベルと学部レベルでのチェックとアクションの体制を整える。 2) については, 今年度並みで実施すると共に, 教員のアセスメントに対する理解の向上を図る研修を行う。			

学校評価シート（H22年度）

学部・部	高等部	記入者氏名	森住利夫
重点課題	(1) - ④個別の指導計画の充実		
現状と課題 及び 目標設定の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画を作成しながら、生徒個々の教育目標に従って、その指導を進めている。しかしながら、ニーズを取り入れた長期・短期の目標設定や指導の手立てについて、必ずしも適切なものになっていない部分があるのが現状である。 目標の内容やその具体性、手立ての有効性、指導や支援の現実的実現性などについて、再検討し修正する必要がある。 		
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画の目標設定と内容、手立ての有効性とその記述方法について検討する。 		

具体的な指標 ex. (数値化) (定性的表現による尺度化)	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画の目標について、達成可能な具体的目標であるかどうかについて検討・修正をする。 ・各学習における目標達成度が80%以上になる。
目標達成のための活動計画 (手だて、スケジュール等 を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・4月下旬に、学部のすべての生徒の個別の指導計画について支援会議を実施する。不備の目標や疑問点を洗い出して、修正する。 ・5月上旬に、修正内容を再度確認する。 ・毎月末に指導計画の進捗状況や、目標などの修正が必要かどうかのチェックを行う。 ・個別の指導計画以外の年間学習計画に組み込んである目標および内容や評価についても同じく確認をしていく。

評価指標の達成度（3月）	<ul style="list-style-type: none"> ・4月と10月の学部支援会議において、個別の指導計画について学部教員全員による検討と共通理解を行った。 			
活動計画の実施状況 （3月）	<ul style="list-style-type: none"> ・前期後期の初めにおいて、個別の指導計画のチェックをすることはできたが、毎月末毎に全てをチェックをすることはできなかった。 			
総合評価 （○で囲む）	A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の個別の指導計画（前期・後期） 			
次年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的で、評価の可能な目標になっているか ・手だての内容の検討 			

学校評価シート（H22年度）

学部・部	教務部	記入者氏名	田宮 亘司
重点課題	(1) - ④個別の指導計画の効果的かつ効率的な運用を図る		
現状と課題 及び 目標設定の理由	個別の指導計画の運用において、次の課題点が挙げられる。 ・尺度表の評価は教員の主観で行っており、評価の観点に相違がある。 ・自立活動においては、尺度表では網羅できない部分がある。また、現行の個別の指導計画の書式では、教育活動全般との関わりがわかりにくい。 ・個別の指導計画の進捗状況をチェックするシステムが確立されていない。 ・学校重点項目に係わる形成的な長期評価がなされていない。		
重点目標	①新学習指導要領に則った、指導内容項目の見直しと評価基準の設定を行う。 ②個別の自立活動指導計画の書式を作成する。 ③個別の指導計画の進捗状況確認システムを考案する。 ④形成的な長期評価システムを考案する（進路・支援部と共同）。		

具体的な指標 ex. (数値化) (定性的表現による尺度化)	①・現行の尺度表について、評価基準を設定する。 ・別の重点課題で挙げた指導内容についての項目及び評価基準を尺度表に設定する。 ②・個別の自立活動指導計画の試案を作成する。 ・試案を暫定的に運用し、修正案を作成する。 ③各学部で進捗状況を確認できる方法を試案し、実践する。 ④進路・支援部と協議を行い、長期評価の案をまとめる。
目標達成のための活動計画 (手だて、スケジュール等を含む)	①7月～9月にかけて、評価基準の検討と項目の見直しを行う。 10月に、次年度に用いる尺度表を完成する。 ②5月～7月にかけて、試案を作成する。 9月に、一部の学部で試験的に運用を始める。 12月に、試案運用の評価を行う。 1月に、次年度の運用についてまとめる。 ③5月～6月にかけ、各学部で実践する。 ④8月に協議を行う。 11月に長期評価についてまとめる。 ※①から④までのパッケージ化を2月までに行う。

評価指標の達成度 (10月)	①活動計画範囲は達成 ②試験的導入までには至らず ③活動計画範囲は達成 ④活動計画範囲は達成			
活動計画の実施状況 (10月)	①新尺度表として完成した。②教務部内で試案を協議する範囲で終わった。 ③実践までに至ったが、実用的な運用面で課題が生じた。今後は協議を重ね、来年度に向けた調整をする必要がある。④個別の教育支援計画と指導計画の書式の原案について協議を行えた。			
総合評価 (○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	①、②については達成した。③は運用面での課題解決策を提案し、次年度実施することになった。④は進路・支援部と協議し、新書式を作成できた。			
次年度の課題	教育支援計画や個別の指導計画（個別の自立活動の指導計画も含む）が、実際の運用レベルで稼働できているかを点検し、問題点を随時解決していくことが課題である。そのため、次年度からは、月に1回、指導計画の日を設け、全職員が個別の指導計画をチェックする取り組みをすることとした。			

学校評価シート（H22年度）

学部・部	小学部	記入者氏名	港 真理子
重点課題	(1) -⑤教員の授業力向上を図る		
現状と課題 及び 目標設定の理由	<p>小学部では「校内自立」を目指して、基本的な生活習慣・基礎的な学習能力・集団参加の3つの柱を立てて指導支援している。教育課程を再編成し、3つの指導形態をとっており、実際の授業場面では個別から小グループ、クラス、学部、学校へと学習形態が拡大されていく。</p> <p>今年度は研究の方でももう一度授業に立ち返ろうとする視点で取り組んでいるが、これを機に小学部でもそれぞれの授業形態の中での学習場面で各教員が授業を振り返り、自ら評価していくことが重要と考えた。特に授業システムに着目して進めたい。</p>		
重点目標	各教員が授業の評価を行い、形態や方法に付いての改善を図る。		

具体的な指標 ex. (数値化) (定性的表現による尺度化)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のシステム上の課題を拾える評価シートを作成する。 ・評価シートをもとに学部会で授業の改善点やシステム上の課題を明らかにする。 ・課題が次年度の授業システムに生かされるよう検討する。
目標達成のための活動計画 (手だて、スケジュール等を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて実施する。 ・各教員がテーマを設定して週に1度授業を振り返り、評価シートに記入する。 ・月1回、学部会でそれぞれの授業についての分析を行う。 ・研究授業や5年次研修時には、学部の教員全員でそれぞれの評価の観点を決めて授業分析を行う。

評価指標の達成度 (10月)	研究に絡んでの授業シートを作成した。児童の学習評価と教員の評価の2部である。授業の改善点についても各クラスで話し合う機会を持った。			
活動計画の実施状況 (10月)	研究に絡んでのスタートだったため、4月当初からの実施は難しかった。また、コンスタントに授業分析を行うことはできなかった。本研究の時期に集中的に授業についての話し合いを持った。活動計画からははずれるが、皆が集中して授業を考えることも効果はあったと思う。			
総合評価 (○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70~79%	50~69%	49%以下
評価根拠	研究に絡んでのスケジュールがいっぱいで、別枠での授業研究は難しかった。「社会性」に特化した研究ではあったが、評価の観点を明確にした授業を考える機会となった。			
次年度の課題	研究とは別に、また学校としての方向に従ってでも佳いので、学部としてまとめられる規模の全員参加の授業研究ができればいいと思う。			

学校評価シート（H22年度）

学部・部	中学部	記入者氏名	岩寄伸浩
重点課題	(1) - ⑥授業力の向上		
現状と課題、 及び 目標設定の理由	<p>昨年度、中学部では、生徒が授業に参加しやすい状況を作るために、授業の流れを構造化する取り組みを行った。その結果、能力格差のある生徒たちでも、一定の流れを保障すること、視覚支援を活用して情報提示を言語指示だけに頼らないようにすることにより、年度末には一定の成果を得ることができた。</p> <p>今年度は、授業の流れの枠組みから、より内容理解を促進するようなユニット化、生徒の行動の始発を高めるための弁別刺激の活用と行動強化方法の設定に着目した教員の働きかけについての評定項目を設定した授業研修を行っていきたい。</p>		
重点目標	専門性の向上（授業実践力）		

具体的な指標 ex. (数値化) (定性的表現による尺度化)	1) 自立活動の並びに国語・数学の各グループの取り組みにおける指導内容の中学部版ユニットを策定する。 2) 月に一度、30分程度の授業研修を持ち回りで各グループ毎に行う。 3) 校内研究を通じて、個々の生徒の行動の始発性を高めるための指導の要素である「弁別刺激の活用」「行動の強化方法の設定」についての中学部版のガイドラインを策定する。
目標達成のための活動計画 (手だて、スケジュール等を含む)	年間を通じて、実施する。 3) ・校内研究のタイムテーブルに沿って、12月までにまとめる ・大学 八幡先生との共同研究を通じてアドバイスをもらう

評価指標の達成度 (10月)	○			
活動計画の実施状況 (10月)	1) 中学部版ユニットの要素が集まっている。 2) 定期的な授業検討は、それぞれのグループで実施できている。 3) 研究のとりまとめ中につき、完成には至っていない。			
総合評価 (○で囲む)	(A)	B	C	D
評価根拠	80%以上	70~79%	50~69%	49%以下
評価根拠	1) では、自立活動の指導と職業・家庭科におけるユニット案をとりまとめることができた。 2) では、各学習グループ毎に検討を行うことができた。 3) では、生徒の行動評価シート及び教員の行動評価シートを開発した。			
次年度の課題	1) については、全体指導計画や年間指導計画に基づいたユニット案をまとめる。 2) については、今年度並みに実施する。 3) については、支援会議並びに各授業の運用についての協議のための基本資料として活用する。			

学校評価シート（H22度）

学部・部	高等部	記入者氏名	森住利夫
重点課題	(1) - ⑤教員の授業力向上		
現状と課題 及び 目標設定の理由	<p>・個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成を通して、個々の生徒の教育の充実がますます図られていく現状にある。しかしながら、ともすると、計画作成に追われて、実際の指導についてはやや内容が伴っていない部分があるのも否めない。</p> <p>教師の本分は授業であることからすると、授業力、指導力を磨くことは教師にとって必要不可欠のことであり、まさに資質の向上につながるものである。</p>		
重点目標	<p>・学部研究授業および授業検討会を実施することにより、教員の授業力向上を目指す。</p>		

<p>具体的な指標 ex. (数値化) (定性的表現による尺度化)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間で3回の学部研究授業を実施し、授業検討会を実施する中で、指導計画と学習内容の検討とともに、指導力の向上を図る。 ・各教科、および領域・教科をあわせた指導における年間指導計画と学習内容の一覧表を作成する。 ・各授業において評価の観点から採点をし、80%の達成率になる。
<p>目標達成のための活動計画 (手だて、スケジュール等を含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究計画に沿いながら、研究授業を実施する。 ・前期において、各学習担当者から出された指導計画の検討をするともに、8月までにその内容の妥当性について検討し高等部の学習内容表の基礎資料とする。 ・各授業において簡易指導案を作成し、それを蓄積することにより、学習指導計画および学習内容および日々の授業の評価を行う資料とする。

<p>評価指標の達成度 (3月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究に合わせた研究授業を1回およびサブ研究授業検討会を1回実施した。 ・PDCA サイクルと授業評価シートにより授業の充実度が向上した。 ・学習内容と授業評価の検討までには至らなかった。 			
<p>活動計画の実施状況 (3月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各担当の全授業における年間学習指導計画を作成し、5月までに提出した。 ・研究授業 (5月) サブ研究授業 (10月) 			
<p>総合評価 (○で囲む)</p>	A	B	C	D
	80%以上	70~79%	50~69%	49%以下
<p>評価根拠</p>				
<p>次年度の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業における学習内容の妥当性の検討 ・指導案の評価の観点の妥当性とその達成度について 			

学校評価シート（H22年度）

学部・部	研究部	記入者氏名	吉本 貴明	
重点課題	(1) - ⑤教員の授業力向上			
現状と課題 及び 目標設定の理由	本校は大学の附属学校として、研究、実地教育に重点的に取り組むが、そのための下地として、教員の授業力向上が必要となってくる。近年の教員の入れ替わりにより、本校勤務年数が若い教員が増えてきた。子どもたちの障がいも重度・重複化している。この現状より、教師の専門性を向上するための研修の場を設定することが必要だと考える。			
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部1回ずつ全体研究会を設定し、全員で授業検討ができる場を設ける。 ・協議の際には、研究にそったテーマで意見を交換することができる。 			

具体的な指標 ex. (数値化) (定性的表現による尺度化)	<ul style="list-style-type: none"> ・5月（高等部）、7月（中学部）、10月（小学部）に全体授業検討会を設定する。 ・研究協議では、授業内容だけでなく、研究テーマに沿った協議、各学部の意見交換ができるように資料を元に話をしてもらう。
目標達成のための活動計画 (手だて、スケジュール等を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究部で5月の連休明けまでに協議の際に話をしてもらうテーマを検討する。 ・授業前に協議内容を提示し、参観する際にはそのポイントを元に授業を見てもらう。 ・大学の先生方を招聘し、研究活動に対する意見、アドバイスを頂く。

評価指標の達成度（10月）	計画した計3回の授業検討会を行った。授業検討会においては各学部からだされた内容で協議を行い、意見交換を行うことができた。			
活動計画の実施状況 (2月)	計画していた授業検討会を行い、大学の先生方にもアドバイザーという形で入ってもらった。各学部の検討内容が一貫性、系統性があるかどうかは置いておいて、研究に絡む内容で協議ができています。			
総合評価 (○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	研究授業と授業検討会を予定通り開催できたこと。授業検討会の中で、研究授業についてだけでなく討議の柱を立てて話げたこと。			
次年度の課題	<p>研究授業をなかなか見に行けず、少しの時間の参観やビデオでの確認をすることが多かった。授業者に対して、授業準備等のご苦勞をねぎらうためにも研究授業の在り方を考える。</p> <p>授業検討会では、討議の柱に応じて各グループで協議を行った結果、色々な意見が出てきて盛り上がりが見られたので、この進め方は来年度以降も話し合いによっては利用していきたい。</p>			

学校評価シート（H22年度）

学部・部	地域支援部	記入者氏名	西 直子
重点課題	(2) - ①大学との連携強化 ②教育相談及び講師ができる教員の育成 ③今後のセンター的機能の方向性の検討		
現状と課題 及び 目標設定の理由	<p>毎年、地域支援部（旧支援部）のアドバイザーとして、鳴門教育大学特別支援教育専攻井上とも子准教授より、支援・指導を受けている。各種研修活動、教育相談活動、事例検討会などにおいて協力いただいている。</p> <p>本年度は本校に新設された地域連携棟を使って、井上ゼミの授業の一つである「わくわく教室」（就学前幼児対象のグループセッション）が予定されている。身近な環境で、週1回（年間30回）のセッションが行われることから、地域支援部として2-（1）、2-（2）に関して課題達成につながる要素があると考えている。セッションの見学、事前事後指導の見学、保護者への説明・対応の見学、セッションに関する井上先生への質疑応答などを通して教育相談に関わる本校職員の資質向上をめざし、センター的機能を発揮していくための土台作りをしていきたい。</p> <p>学校研究の主題として「社会性」が取り上げられて2年目を迎えている。「わくわく教室」では、発達障害をもつ就学前幼児が幼稚園・保育園で円滑に生活していくための指導を小グループで行っている。また、小学校への進学後や将来へ向けてつながっていく社会性を育てていこうとする視点がセッションの中心である。このことから、本校の研究とも接点があり、社会的なニーズの一端を見ることができると考えられる。</p> <p>今年度からの、地域連携棟の活用や従来からの校務である校外向け研修会の開催や各種教育相談活動を通して、大学附属であること・立地条件・学校規模等の特徴を生かしたセンター的機能の充実が図っていけるよう模索していくことが、2-（3）の課題達成につながっていくと考える。</p>		
重点目標	①大学との連携を強化することにより、教育相談に関わる本校職員の資質向上を目指す。 ②地域連携棟の活用を含め、本校が特色あるセンター的機能を発揮していくために、地域支援部としてどのような役割が担えるかを検討し提案する。		

具体的な指標 ex.（数値化） （定性的表現による尺度化）	重点目標①に関して <ul style="list-style-type: none"> ・「わくわく教室」を5名以上の希望者が見学する。 ・「わくわく教室」に関して何らかの指導・助言などを受けられる機会を5回以上設定する。 重点目標②に関して <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携棟の使用を検討し、3種以上の会合や研修会に貸与する。 ・「わくわく教室」に関する研修、校外向け研修会後のアンケート、教育相談活動からの問題点などを総合し、今後のセンター的機能の可能性について提案する。
目標達成のための活動計画 （手だて、スケジュール等を含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育巡回相談員、徳島市就学指導委員、徳島市保育巡回指導員（計7名）が年間1回は「わくわく教室」を見学する。 ・本校職員、保育・教育関係者で希望があれば、見学の機会を設定する。 ・井上先生より「わくわく教室」に関して何らかの指導・助言などを受け研修する機会をもつ。 ・部会の中で、今後のセンター的機能のあり方について検討する。 ・年度末に、地域支援部としてセンター的機能について提案する。

評価指標の達成度（10月）				
活動計画の実施状況（10月）	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育巡回相談員、徳島市就学指導委員、徳島市保育巡回、指導員（計7名）が1回以上見学した。 ・その他の教員の中で、希望者も見学した。 ・「わくわく教室」に関する研修会を開催し、〇名の参加者を得た。 			
総合評価 （○で囲む）	A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・重点目標①に関して、校内、校外の見学希望者の受け入れ人数が目標数を上回った。 ・重点目標②に関して、大学等が主催の事例検討会、ABA研究会など本校以外の機関に貸与することができた。 			
次年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「わくわく教室」に関しては本校での実施1年目でということで、まずはスムーズな関わりができたと考える。関係機関からの見学の受け入れもでき、見学後に井上先生からの説明や相談の時間もとることができた。参加者からの聞き取りからは満足度は高いと見受けられた。 ・「わくわく教室」、校外向け研修会後のアンケート、教育相談活動などから、今後の本校のセンター的機能の可能性について検討した。ひとつは効果的、効率的な相談活動の実施、もうひとつは相談活動を行える人材の育成である。相談活動については、継続的な支援を効果的に行っていくために、研修プログラムの様式を相談活動に盛り込む方法を考えている。 			

学校評価シート（H22年度）

学部・部	地域支援部	記入者氏名	西 直子
重点課題	(2) - ①大学との連携強化 ②教育相談及び講師ができる教員の育成 ③今後のセンター的機能の方向性の検討		
現状と課題 及び 目標設定の理由	<p>現在、附属小学校とはコーディネーター同士による連絡がなされ、2校合同で事例検討会が開かれている。附属小学校からコーディネーター、養護教諭、関係する担任などが本校を訪れ、支援が必要な児童についての事例と一緒に考えてきた。この会には本校の地域支援部員だけではなく管理職や部外の職員も参加して事例検討をし、教員の資質向上、ネットワーク作りにおいて成果をあげている。</p> <p>附属中学校からは昨年度、附属幼稚園からは過去に教育相談として受けた事例はあるが、恒常的な連携はとれていない。何か問題が起きたり、問題が大きくなってからの対処療法的な支援や相談ではなく、教育活動が円滑になされるために、もっと積極的な相談や事例検討の場を持つことが望まれる。幼稚園から小学校へは、特別な支援を必要とする幼児の効果的な引継ぎ方法が課題であったことがある。中学校では発達障害を持つ生徒の進路指導についてのニーズが聞かれている。しかし、いずれも学校全体としての問題としてはあがってきていない。特別なニーズをもつ児童生徒の支援について、それぞれの学校園が、お互いの経験を出し合って話しあえる環境作りの必要性を感じている。その場に、アドバイザーとして大学の特別支援専攻の先生や院生が参加することで、ネットワークに広がりや深さが加わると考える。</p> <p>2-(1)、2-(3)については、まず附属学校園のネットワーク作りを始めたい。とりもなおさず附属幼稚園、小学校、中学校は県下の幼稚園・小学校・中学校の中心的存在である。附属各学校園とのネットワークを作ることは、そこから県下への広がりや期待できるものと考えている。</p>		
重点目標	大学と連携することにより、附属学校園のネットワークを作る。		

具体的な指標 ex. (数値化) (定性的表現による尺度化)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4校園のコーディネーターと大学関係者を交えて、連絡会を1回以上持つ。 ・ 4校園合同で、事例検討会を1回する。
目標達成のための活動計画 (手だて、スケジュール等を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 附属小学校コーディネーターとの連絡会を持つ。 (附小コーディネーターと予定検討中) ・ 附属幼稚園園長・附属中学校校長へネットワーク参加を呼びかける。(昨年度、吉見校長先生へ支援部から依頼しています。加藤校長先生、本年度も、よろしく申し上げます。) ・ 連携の必要性が共有できれば、ネットワーク作りに着手する。 ・ 4校園のコーディネーターで連絡会を持つ。 ・ 4校園の連絡会の中で、事例検討会をする。

評価指標の達成度（10月）				
活動計画の実施状況（10月）	10月13日、附属学校園の特別支援教育コーディネーターの連絡会を実施した。1時間程度、それぞれの学校園でのコーディネーターの校務について情報交換した。今後、1年に1度このような連絡会を持つことを決めた。			
総合評価 (○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	・目標に挙げた、附属学校園の特別支援教育コーディネーターの連絡会を実施した。			
次年度の課題	<p>・附属学校園に関する連絡会の持ち方としては、今年度に立ち上げたコーディネータ連絡会がある。連絡会でのつながりを元に、必要に応じて相談を受け付ける準備はしておく必要がある。幼稚園・中学校からは、本年度は教育相談の依頼はなかったが、附属小学校からは、職員研修会の講師、個別の事例検討会や教育相談の依頼があった。ネットワークができたことで各校のつながりができ、必要なときに連絡ができる体制の基礎ができた。</p> <p>・附属学校園のネットワークは、今年度の連絡会の発足でまずは形ができた。教育相談の状況から考えると、近隣の小学校、幼稚園、保育園からの依頼が多く、継続的な支援を希望される場合が増えている。次年度は、近隣の学校園への継続的な支援についての課題を検討し、計画していきたい。</p>			

学校評価シート (H22年度)

学部・部	研究部	記入者氏名	吉本 貴明
重点課題	(3) - ①「社会性」をテーマとした研究		
現状と課題 及び 目標設定の理由	<p>昨年度、本校職員全員にアンケートをとった結果、「社会性」「授業づくり」というキーワードが得られた。このことを元に全体研究会の場で、「社会性」についての協議、検討を行ってきた。本年度は、昨年度の内容を元に「社会性」を育むためにどのような方法で取り組むのがよいのかを実践研究する。研究紀要の執筆、研究発表会があるので、地元の特別支援に関わる学校、職員、関係機関に対し、情報が発信及び情報交換ができるような研究活動にしていきたいと考える。</p>		
重点目標	<p>・「社会性を育むための授業づくり」という内容で研究を行い、研究紀要にまとめる。</p> <p>・上記テーマで研究発表会を行い、集客数200人以上を目指す。</p>		

<p>具体的な指標 ex. (数値化) (定性的表現による尺度化)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会性を育む」ときにポイントとなる目指す児童生徒像を決める。 ・教科、領域、領域・教科を合わせた指導、自立活動において各学部で授業パッケージを作成し提示する。 ・「社会性を育むための授業」において作成した教材、教具を紹介する。
<p>目標達成のための活動計画 (手だて、スケジュール等を含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・班別研究会において各学部の目指す児童生徒像について全員で協議する。 ・重要レート Ver.2 から教科、領域、領域・教科を合わせた指導において社会性の授業を行う児童生徒をピックアップし、授業計画を立てる。授業ごとに評価項目を設定し、「社会性」が身についたかどうかをPDCAサイクルで検討する。 ・自立活動の授業で、人間関係の形成をフィルターとして児童生徒の社会性について授業計画を立て、授業を行い、「社会性」が身についたかどうかをPDCAサイクルで検討する。 ・C (Check) の際には、児童生徒の評価だけでなく、教師の授業におけるかかわり方全般も考察する。

評価指標の達成度 (10月)	<p>現在、データが揃い、これから検討及び研究紀要執筆に向けての準備を行っていく段階である。研究発表会においては、二次案内の作成中で、11月初旬に各部署に送付する。</p>			
活動計画の実施状況 (3月)	<ul style="list-style-type: none"> ・10月までのデータを各学部共検討し、出てきた課題や検証が必要な内容、今まで行ってきた指導の確認という意味で追指導を行った。同時に、10月までに得られたデータをもとに紀要のまとめを行った。 ・3連休のはじめで、休日開催ということもあって県外特別支援学校の教員の参加が多かったが、県内小中学校の参加が少なく集客数200人を超えることはできなかった。 			
総合評価 (○で囲む)	A	B	Ⓒ	D
	80%以上	70~79%	50~69%	49%以下
評価根拠	<p>・研究紀要はまとめたが、一貫性、系統性ということで欠けている部分があったことにより B、集客数については132人という人数から目標数の約7割程度だったことより C とする。総合評価としては、C とする。</p>			
次年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「わくわくするための授業づくり」という研究を進めるに当たっては、本年度の研究の流れをもとに行う。2年間の計画を立て、その計画に沿って研究を進める。 ・集客数を上げるに当たっては、徳支研を利用しての呼びかけ (第3回担任者研修会) を行い、小中学校の職員の参加を促す。 			

学校評価シート（H22年度）

学部・部	研究部	記入者氏名	吉本 貴明	
重点課題	(3) - ②平成23年度以降の研究の在り方について検討			
現状と課題 及び 目標設定の理由	本校は、近年まれに見る人の異動により継続した研究活動を続けることが難しくなっている。また、労働環境においても残業をすることが難しくなっている現状があり、今までのような研究スタイルで続けることは難しいと考える。そのために本年度の研究活動がどのような形で終わるのかということにもよるが、来年度および以降の研究活動について早い段階で提案し、全体で協議する必要があると考える。			
重点目標	・来年度以降の研究活動について、案を提示し、全員で協議した上で、方向性を決定する。			

具体的な指標 ex. (数値化) (定性的表現による尺度化)	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度以降の研究活動の素案を立てる。 ・素案を元に企画管理委員会及び全体で協議する場を設ける。 <p>(協議内容)</p> <p>研究発表会の持ち方、研究紀要の執筆、研究のまとめを2年に1度としたときに1年次をどのような形のスタイルにするか他</p>
目標達成のための活動計画 (手だて、スケジュール等を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に研究部で協議し、9月の企画管理委員会で1次の検討を行う。 ・もし意見が出た場合は、持ち帰った上で、10月の企画管理委員会までに内容を再考し、案を提出する。 ・具体的な方向性が決まった後、職員会（及び全体研究会、終礼）において全員に周知し、意見をもらう。 ・12月までに意見を元に最終的に決定した内容で全員周知する。

評価指標の達成度（10月）	研究部会、企画運営委員会で話を言い、一つの方向性は決めた。最終的な形については、本年度末に決定し、全員に周知する予定である。			
活動計画の実施状況 (10月)	10月の企画運営委員会では、具体的な話にならなかった。12月から少しずつ話が進み、来年度からの研究については2年間の継続研究、研究発表会は2年目に行い、それに伴って紀要の執筆も2年後とすることが決まった。来年度については、研究発表会がある時期に研究報告会（仮）を開催する。研究報告会については、授業づくりの研究の進め方についての意見交換の場として、授業検討会の拡大版として設定する。			
総合評価 (○で囲む)	A	(B)	C	D
	80%以上	70~79%	50~69%	49%以下
評価根拠	計画通りの進め方ができなかったため、評価をBとする。			
次年度の課題	次年度からの研究が2年間と決まったので、研究計画を立て、ある程度の内容を決めておく。その内容について協議し、来年度がはじまってから考えなくてもすむようにする。授業検討会、全体研究会を研究、研修の場として有効に活用できるような計画を立てる。			

学校評価シート（H22年度）

学部・部	教務部	記入者氏名	岩岸伸浩
重点課題	（４）－①実地教育に関するシステム上の問題を明らかにし、改善プログラムを作成		
現状と課題 及び 目標設定の理由	<p>実地教育は、本校にとっては、大学附属校として重要業務の一つの柱となっている。また、障がい児教育から特別支援教育への制度転換もあり、実際に本校に実地教育に参加する大学・院生の数も増加傾向にある。そうした外部環境の変化に加え、校内の環境については、人事異動等で教員の循環が早まったことが大きな要素であり、大学・院生に対する指導内容についても一定の質の提供ができない部分も想定される。そこで、今一度、実地教育に関する手続きや内容について、システム化し教員間でのコンセンサスを図る必要がある。また、毎年、年度毎の総括を大学側と行っているが、依然として相互の役割と責任が不明瞭な点もあり、改善の余地がある。</p>		
重点目標	実地教育における本校の役割の設定と指導と評価の手続きのシステム化		

具体的な指標 ex.（数値化） （定性的表現による尺度化）	1) 実地教育に対する大学側と本校の役割を明確にするために、特別支援教育に携わる教員に関係する専門性の項目を設定する。 2) 1) に対して、本校の役割の範疇の中から、限られた実習期間で本校教員が指導すべき項目と内容を抽出し、それらに対する指導と評価のガイドラインを策定する。
目標達成のための活動計画 （手だて、スケジュール等を含む）	教務部内で検討する。

評価指標の達成度（10月）	○			
活動計画の実施状況（10月）	1) 新しい教育実習のガイドライン及び評価システムを作成・実施することができた。 2) 実習終了後に検討し、大学側と交渉する予定。			
総合評価（○で囲む）	(A)	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	1) では、新しいガイドラインと評価システムを設定することができた。 2) では、大学側担当者との協議をすることができた。			
次年度の課題	1) については、趣旨と手続きについて教員間のコンセンサスを図る。 2) については、大学側の意向を踏まえた教育実習のあり方について、教育実習の位置づけや運営、指導教員としての役割と評価についての全体的な方針の検討と共通理解を図る。			

学校評価シート（H22年度）

学部・部		記入者氏名	郡 俊恵
重点課題	(5) - ①学校評価と教員評価の連動		
現状と課題 目標設定の理由	<p>教員評価は、各教職員の主体的な能力向上や職務への積極的な取り組みを促すため、各自が学校目標を踏まえた自己目標を設定し、その達成状況を評価する自己申告・自己評価システムである。</p> <p>本年度より、全県下で導入されることとなったが、本校でも上記を主旨とし、学校評価と連動させて導入することが、学校の課題解決のための有効なシステムになると考えられる。</p>		
重点目標	教員評価を導入することにより、各教職員各自の専門性が向上し、校務遂行に関する貢献率がアップする。		

具体的な指標 ex. (数値化) (定性的表現による尺度化)	今年度末、教員評価の最終申告が終了した時点で、目標の達成状況と教員評価の効果についての調査を実施する。 (達成状況の平均が5～6割以上で、7割以上の教職員から、能力向上及び校務遂行において効果があったという回答があること、校務が計画通り遂行されていることで達成とする)
目標達成のための活動計画 (手だて、スケジュール等を含む)	① 5月→教員評価のシステムについての全体周知を行う。 ② 6月初旬→目標の申告 ③ 6月初旬～中旬→目標設定についての面談 ④ 10月→目標修正についての中間面談 ⑤ 2月初旬→最終申告 ⑥ 2月中→最終面談 ⑦ 3月→教員評価の効果についての調査

評価指標の達成度 (10月)	①～③まで達成			
活動計画の実施状況 (10月))	① 5月→教員評価のシステムについての全体周知を行う。 ② 6月初旬→目標の申告 ③ 7月～8月→目標設定についての面談			
総合評価 (○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	教員全体の平均自己評価が3.6 (5段階評価) 教員評価についてのアンケート結果 <ul style="list-style-type: none"> ・教員評価の目的や意義について充分理解できたか→肯定61% ・面談の設定時期や内容は適切であったか→肯定37% ・実施の日程は適切であったか→肯定66% ・学校評価の目標の周知は充分であったか→肯定50% ・目標設定及び記入はスムーズにできたか→肯定57% ・教員評価は校務遂行及び目標の自己管理を行う上で有効であったか→肯定68% 			
次年度の課題	次年度は、①学校評価の目標の周知の徹底、②面談の設定についての検討、③目標設定及び記入についての説明及びアドバイスを行うことで、より有意義な教員評価を目指したい。			

学校評価シート（H22年度）

学部・部		記入者氏名	郡 俊恵
重点課題	(5) - ②運営方針及び運営計画の作成及び周知徹底		
現状と課題 目標設定の理由	<p>本校では、今年度より3年を目標として①指導と支援の充実、②センター的機能の充実、③研究の推進と発信、④実地教育の充実、⑤効果的な組織マネジメントの導入についての取り組みを開始した。今年度は、項目毎に重点課題を設定し、各学部、各校務部で分担して取り組みを進めているが、教員全員が見通しを持って計画的に実行していくためには、3年にわたる具体的な計画の作成及び全体への周知・共通理解が必要である。</p> <p>そこで、各学部・校務部と検討を行いつつ22年度～24年度の経営計画を作成するとともに、計画を効果的に実行していくためのシステムを考案し、それをスムーズに運用するためのルール作成を行うこととした。</p>		
重点目標	<p>① 22年度～24年度の具体的な経営計画及び、計画を実行するためのシステムづくりを行う。</p> <p>② ①についての全体周知を図る。</p>		

具体的な指標 ex. (数値化) (定性的表現による尺度化)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 22年度～24年度の具体的な経営計画を作成する。 ・ 計画を効果的に実行するためのシステムを考案し、ルール化する。 ・ 経営計画及び運用ルールの全体周知を図る。 (確認のための指標として、経営計画が教員評価の次年度の課題設定に反映されているかどうかを調査する。7割以上の反映を目標とする)
目標達成のための活動計画 (手だて、スケジュール等を含む)	<p>① 今年度の進捗状況等字を見ながら、原案を8月の企画管理委員会に提出する。</p> <p>② 企画管理委員会の検討をふまえて、修正・調整を行う。</p> <p>③ 9月の職員会議に経営計画を提出し、全体周知を行う。</p> <p>④ 年度末の教員評価面談で、計画が教員評価の次年度の課題設定に反映されているかどうかを確認のための指標として調査する。</p>

評価指標の達成度 (10月)	教職大学院で研修中の森教諭から提案された組織マネジメントの手續きに沿って、10月の企画管理委員会で「わくわく感のある授業づくり」というテーマに基づいた23年度から24年度に向けてのロードマップの作成を行った。		
活動計画の実施状況 (10月))	森教諭の提案で、今後3年間の経営計画を管理職が作成するのではなく、マネジメント研修カリキュラム等開発会議の手法を応用し、企画管理委員会で経営計画を作成を進めていくことを8月の企画管理委員会で確認→10月の企画管理委員会でワークショップ形式でロードマップの作成。周知は具体的に業務分担と実施計画が作成されてから12月に行う予定		
総合評価 (○で囲む)	A	B	C
	80%以上	70～79%	50～69%
評価根拠	22年度～24年度に向けてのロードマップ→仕事分解・構造化→23年度の具体的な業務分担及び実施が作成できた。 ※教員評価の結果については現時点では未集計		
次年度の課題	本年度作成した計画を効果的に実行していくためのシステムづくりとそれをスムーズに運用するためのルール作成・実行 確実な全体周知と教員評価との連動		

学校評価シート（H22年度）

学部・部	総務部	記入者氏名	清久 幸恵
重点課題	(5) - ③校務運営の効率化		
現状と課題 及び 目標設定の理由	<p>本年度より、グループウェアの利用を開始している。グループウェアで情報を共有することで、業務の効率化が期待されている。また、迅速な情報提供をすることができる。</p> <p>今年度は、グループウェアを実際に全教員で使用をし、もっと有効な活用の仕方を検討していく。校内の資料をグループウェア上で整理をし、使いやすいよう工夫をしていき、校務運営の効率化を目指す。</p>		
重点目標			

具体的な指標 ex. (数値化) (定性的表現による尺度化)	①教員全員がグループウェアの使用の仕方がわかり、活用をする。 ②グループウェアを使用してみて、昨年度よりも便利になったと教員の80%以上が感じる。
目標達成のための活動計画 (手だて、スケジュール等を含む)	4月 グループウェアの運用開始 職員会議等により、使用の仕方を説明。会議で利用開始 7・8月 現在の保存場所からグループウェア上へ情報を移動 グループウェアでの情報管理を行う 12月 グループウェア使用についてのアンケートを教員に行う

評価指標の達成度 (10月)	グループウェアへのデータの移動は、夏休み中に分担をして行うことができた。使用の仕方も伝達を行い、わかりにくい方には個別に対応した。			
活動計画の実施状況 (10月)	グループウェア上で情報の共有を行うことができ、データの移動、管理を行うことができている。			
総合評価 (○で囲む)	A	(B)	C	D
	80%以上	70~79%	50~69%	49%以下
評価根拠	使い方について、アンケートに回答があった22名中、2名が分かっていないと答えた。グループウェアを利用することで便利になったかの質問では、22名中、16名が便利になったと答え72%で、80%には至らなかった。			
次年度の課題	グループウェア上での再編集について、大学側と話し合いを続ける。自宅から見るができるが、セキュリティ面の確認と利用の仕方について周知をすること。			

学校評価に関するアンケート結果（保護者）

評価項目	評価事項	評価結果					
		4	3	2	1	?	
よくあてはまる→4 ややあてはまる→3 あまりあてはまらない→2 全くあてはまらない→1 わからない→? 回収45/60 (75%)							
教育 活動	1	お子さんは、喜んで登校していますか。	40 (89%)	3 (7%)	0	1 (2%)	0
	2	個別の指導計画の内容は適切ですか。	31 (69%)	19 (42%)	0	0	0
	3	一人一人の児童生徒にに応じた教材・教具を準備し、わかりやすい授業ができていますか。	21 (47%)	20 (44%)	2 (4%)	0	2 (4%)
	4	一人一人の障害特性や状況に応じた適切な指導・支援ができていますか。	21 (47%)	23 (51%)	2 (4%)	0	2 (4%)
	5	本校の指導・支援をとおして、お子さんの成長がみられましたか。	24 (53%)	19 (43%)	2 (4%)	0	0
	6	お子さんの年齢・発達段階に応じて、計画的な進路指導・支援ができていますか。	19 (42%)	25 (56%)	0	0	1 (2%)
	7	学校行事で、お子さんの積極的な参加や、いきいきとした様子が見られましたか。	31 (69%)	11 (24%)	2 (4%)	1 (2%)	0
	8	学習活動を行うための環境は、整っていますか。	24 (53%)	18 (40%)	1 (2%)	0	2 (4%)
	9	安全のための事故対策、不審者対策、防災対策は充分ですか。	20 (44%)	23 (51%)	0	0	2 (4%)
	10	個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成について、教員と充分な話し合いができましたか。	31 (69%)	13 (29%)	1 (2%)	0	0
	11	日々の家庭との連絡や意思疎通が綿密にできていますか。	23 (51%)	20 (44%)	1 (2%)	0	1 (2%)

家庭 関係 機関 との 連携	12	保護者からの相談や悩みについて適切に対応できていますか。	23 (51%)	15 (33%)	7 (16%)	0	0
	13	進路に関する情報提供が十分にできていますか。	9 (20%)	26 (58%)	6 (13%)	0	4 (9%)
	14	個人情報保護の保護や管理は充分ですか。	25 (56%)	14 (31%)	4 (9%)	0	2 (4%)
	15	個別の教育支援計画をもとに、関係諸機関と連携・協力ができていますか。	15 (33%)	23 (51%)	3 (7%)	0	4 (9%)
	16	学校だよりやホームページ等を活用して、学校に関する情報提供ができていますか。	14 (31%)	25 (56%)	1 (2%)	1 (2%)	4 (9%)
学校 運営	16	学校の運営方針や取り組みが、わかりやすく説明されていますか。	13 (29%)	24 (53%)	4 (9%)	1 (2%)	3 (7%)

学校評価アンケート結果（教員）

よくあてはまる→4 ややあてはまる→3 あまりあてはまらない→2 全くあてはまらない→1 わからない→? 回収 23/26 (88%)

評価項目	評価事項	評価結果					
		4	3	2	1	?	
教育活動	1	学校の運営方針に沿った教育活動ができていますか。	6 (26%)	15 (65%)	2 (9%)	0	0
	2	個別の指導計画の内容は適切だと思う。	3 (13%)	18 (78%)	3 (13%)	0	0
	3	一人一人の児童生徒に応じた教材・教具を準備し、わかりやすい授業ができていますか。	3 (13%)	15 (18%)	2 (9%)	0	0
	4	一人一人の障害特性や状況に応じた適切な指導・支援ができていますか。	6 (26%)	16 (26%)	4 (13%)	0	0
	5	自分の指導・支援をとおして、お子さんの成長がみられましたか。	9 (39%)	14 (61%)	0	0	0
	6	お子さんの年齢・発達段階に応じて、計画的な進路指導・支援ができていますか。	8 (35%)	12 (51%)	3 (13%)	0	0
	7	学校行事で、児童生徒の積極的な参加や、いきいきとした様子が見られましたか。	11 (48%)	12 (51%)	0	0	0
	8	学習活動を行うための環境は、整っていますか。	5 (22%)	16 (70%)	2 (7%)	0	0
	9	安全のための事故対策、不審者対策、防災対策は充分ですか。	3 (13%)	17 (74%)	3 (13%)	0	0
学習環境							

<p>家庭 関係 機関 との 連携</p> <p>実地 教育</p> <p>学校 運営</p>	10	個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成について、保護者と十分な話し合いができましたか。	10 (43%)	9 (39%)	2 (9%)	1 (4%)	1 (4%)
	11	日々の家庭との連絡や意思疎通が綿密にできていますか。	8 (35%)	14 (61%)	1 (4%)	0	0
	12	保護者からの相談や悩みについて適切に対応できていますか。	5 (22%)	15 (65%)	3 (13%)	0	0
	13	進路に関する情報提供が十分にできていますか。	4 (17%)	12 (52%)	7 (30%)	0	0
	14	個人情報の保護や管理は充分ですか。	9 (39%)	12 (52%)	2 (9%)	0	0
	15	個別の教育支援計画をもとに、関係諸機関と連携・協力ができていますか。	1 (4%)	17 (74%)	5 (13%)	0	0
	16	学校だよりやホームページ等を活用して、学校に関する情報提供ができていますか。	3 (13%)	14 (61%)	4 (17%)	1 (4%)	1 (4%)
	17	教育実習生に対して、適切な指導ができていますか。	6 (26%)	17 (74%)	0	0	0
	18	学校の運営方針が、十分に説明されていますか。	3 (13%)	13 (57%)	6 (26%)	1 (4%)	0